

平成17年度協働事業提案 公開調整記録

No. 4 つきみ野けやき並木を考える会

と き 平成17年7月4日(月) 19:40~20:30

ところ 大和市役所4階土木部

参加者

- ・提案者：村越さん、高木さん、伊知地さん
- ・関係課：土木総務課(金子) 土木管理課(小室、上野、金子)
- ・協働推進会議：中村委員、中島さん(事務局ボランティア)
- ・事務局：市民活動課(小山、鈴木)

【提案者の想い・調整の主な内容】

提案者

- ・けやき並木をどうするかは、地元でも話題になっており、土木部と情報交換してきた。
- ・落ち葉は、これまで沿道の方の負担となってきたことは理解している。今後は、協働事業等の取組みにより、地域の樹を守るという視点から地域で負担していきたい。
- ・検討プロジェクトと今回提案した協働事業の関係について行政としてどう考えているのか聞きたい。
- ・パークリッチ剪定法という剪定の方法がある。モデル剪定を通じてその効果を示し、今後大和市の剪定方法として全市的に広めていきたい。
- ・検討プロジェクトと提案した協働事業は、重なるところもあるが、樹木に対する意識の向上や剪定方法の普及という面では、協働事業独自の価値があると思う。
- ・沿道の人からすると、いったんお知らせした全面伐採から、方向転換をしたと言うことで疑問に思われている方もいる。なるべく沿道の方の負担を減らすように努力していきたいと思い、その取組みとして協働事業を提案した。
- ・性急な解決に向かってしまいそうで不安を感じている。時間をかけて沿道の方にも理解をしてもらいながら進めていきたい。
- ・モデル剪定の成長を実際に確認してもらうのは、2~3年かかる。
- ・協働事業としては、モデル剪定に重心を置き、どのような剪定がよいのか知恵を出し合っていきたい。この点で、検討プロジェクトチーム(地元意思の合意形成の場)とのすみわけが出来る。
- ・モデル剪定については、看板を設置し、剪定後の姿を市民に分かるようにする。これ

は協働事業のPRにもなるのでは。

土木総務課

- ・ けやきについては、一般的な道路の付属物という意味での街路樹として捉えてきた。道路管理上の安全という面を第一に考え全面伐採を決めた。しかし、その後の検討で、けやきも工夫して残せるものは、残していこうという立場に立っている。この点では提案者と同じ考えに立っていると思う。
- ・ 地元で検討プロジェクトを立ち上げ、けやきについての検討を進めていく。
- ・ 検討プロジェクトの構成
 - * 地元自治会
 - * つきみ野けやき並木を考える有志の会
 - * 専門家（まちづくり、樹木医）
 - * まちづくり委員会
 - * 沿道住民 } 10名程度
・・・希望者
- ・ 検討プロジェクト第1回目を7月23日（土）に開催する予定で、地元自治会にも呼びかけのチラシを回覧している。
- ・ 検討プロジェクトでは、剪定の問題等、4～5回開催を経て、11月までに一定の方向性を作りたい。（来年度予算へ反映させるため）
- ・ 検討プロジェクトの中で出された課題を解決するために、協働事業として提案されている内容は重要なものと考えている。
- ・ モデル剪定については、今年度の予算の範囲でできるだけ実施していきたいと考えている。

協働推進会議

- ・ けやきについて、計画の問題・管理の問題という2つの側面がある。計画の面で地元の検討プロジェクトと協働事業と2つを並行して進めていくことは難しくないか。
- ・ 役割分担は、市と市民とが、お互いにできることを出し合いながら決まっていくこと。市が何ができるか、提案者が何ができるかを話し合うなかで役割分担を決めていくことが必要。
- ・ 協働事業は、これまで数件動いてきているが、なかなか市民の目に付かないこともある。この事業は、街並に関することでもあり、市民の目につく事業である。協働事業として行われた結果が、市民にわかりやすく伝わり、その結果として協働事業のPRにもなると思う。

【確認事項】

- ・市の担当課としても、協働事業として提案いただいた内容については、今後進めていきたい。
- ・具体的なことは、検討プロジェクトの経過を見守りながら検討を進めていく。
- ・調整会議は、今回で終了する。

【地元検討プロジェクトについて】

「つきみ野けやき並木道検討プロジェクト会議」とは、

地元及び近隣自治会、地元まちづくり委員会、沿道住民の方々、つきみ野けやき並木を考える有志の会、まちづくりや樹木の専門家、行政が参画し、当該並木道について、関係者の理解を得ながら、残せる樹は残すという方針に基づき、維持管理も含めた今後のあり方等を検討する会議です。

【記録者：市民活動課 鈴木】